

令和3年度 丹波縄文の森塾7日目(11月20日)

11月20日、当日は音楽会など学校行事と重なって参加出来なかった塾生も多かったのですが、予定どおり第7日目の森塾を開催しました。

午前のプログラムは里山の尾根登りです。まず、スタッフが山での心構えや注意点について説明し、しっかりストレッチした後、標高377メートルの山登りに出発！コース前半は、結構厳しい上り坂が続く上に岩場もあり、登り始めて間もないころから「疲れたー！」とか「頂上まであとどれくらい？」などの声も聞かれましたが、徐々にペースをつかみ、息を弾ませながらもみんな元気に山

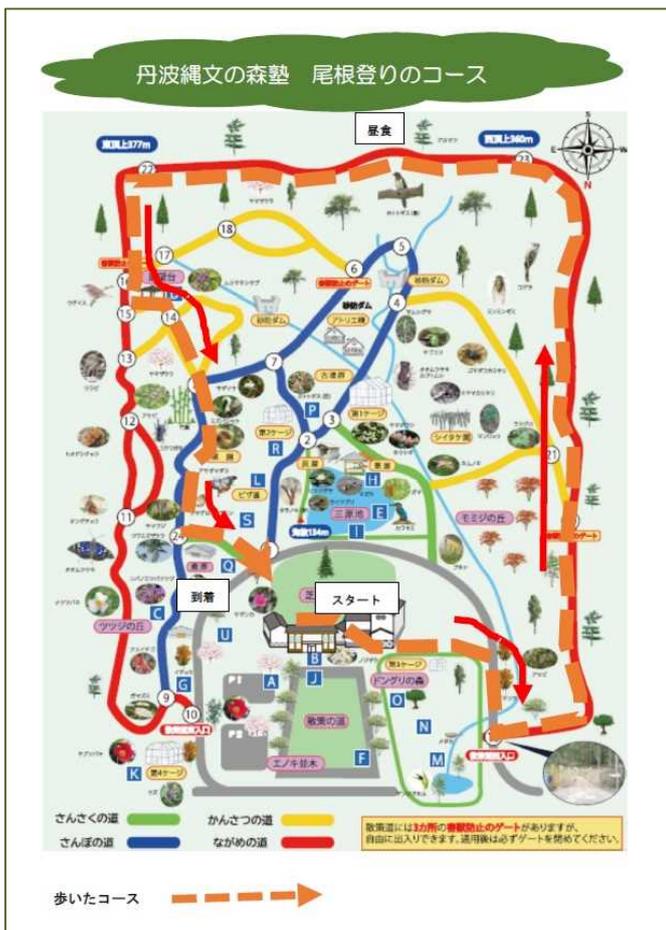
を登ります。道中、山に生えている木々や植生の違い、散策道にある杭などの説明を聞きました。標高が高くなるにつれ、木々の間から眼下に広がる市街地の景色が見えるようになり、眺望を楽しみながら頂上を目指しました。そして頂上の少し手前でお昼ご飯をいただきました。すばらしい景色の中でのお弁当は格別でした。

昼食後は、下山コース「冒険の道」を下ります。転ぶと下まで落ちてしまいそうな急な斜面が続く上に、石や落ち葉で滑りやすい最大の難所です。そのため、特に危険な箇所には、スタッフが事前にロープを張っていますが、そのロープを握りしめながら慎重に斜面を下ります。低学年には少し厳しいコースですが、上級生が下級生の様子も見ながら、声を掛け助け合って全員無事に下山しました。

午後のプログラムは、脱穀体験です。今ではコンバインで稲刈りから脱穀までを済ませてしまっていますが、この日は昔ながらの方法で脱穀します。10月に刈り取り、稲木に掛けて乾燥させた稲穂

を、「足踏み脱穀機」と「千歯こき」という2種類の器具を使って脱穀しました。最初、なかなかコツがつかめなかった塾生もありましたが、スタッフやサポーターの指導を受けながら全員上手に作業を終えることができました。この日脱穀したもち米は、12月の森塾でお餅にさせていただくことにしています。次回の餅つきが楽しみです。

脱穀体験の後、焼き芋をいただきました。みんなが山登りをしている間に、杉本サポーターが窯を使い、じっくりとで石焼きにしてくれたものです。熱々の焼き芋は最高でした。





頑張って尾根を登り、頂上付近でお弁当



下山コース「冒険の道」



展望台で写真撮影



昔ながらの器具を使った脱穀



おやつ焼き芋